



わかみどり

<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>



地域の自然から学び、未来へつなぐ

本校では、地域の豊かな自然を教材として、学年ごとの学びをつなぎながら環境学習を進めています。自然に親しみ、その恵みや大切さを実感するとともに、自分たちにできることを考え、行動する力を育んでいます。

1・2年生は、先週、1週間限定の「ビオトープ水族館」をオープンしました。事前学習では胎内市の「昆虫の家」を訪れ、生きものの特徴や、水族館をつくる際に大切なことを学びました。その後、いわふね自然愛好会の方や地域の方と一緒に学校のビオトープで生きものを採集しました。捕まえた生きものの名前や特徴、飼育方法を教えていただきながら準備を進め、期間限定の水族館をオープンしました。多くの子どもたちが訪れ、生きものへの興味や命を大切にする気持ちを育む貴重な機会となりました。



3・4年生は、7月3日に荒川で川遊びや鮎の塩焼き体験を行いました。川に入り、水の流れや冷たさ、生きものの存在を五感で感じながら、荒川の豊かな自然の恵みを体感した一日となりました。また、4年生は小岩内地区を訪れ、地域の方から過去の水害について現地でお話を伺い、自然の恵みだけでなく、水害の恐ろしさや災害への備えについても学びました。さらに、7月10日には羽越河川国道事務所の皆様のご協力のもと、荒川の水質調査や生きものの採集を実施しました。川にすむ生きものを調べることで、水質と生きものとの関わりについて理解を深め、地域の自然を科学的な視点から学ぶことができました。



５・６年生の美化委員会では、「人にも生きものにもやさしいビオトープ」をテーマに活動を進めています。先日は、ビオトープづくりの専門業者の方とオンラインで意見交換を行い、「人の視点」と「生きものの視点」の両方から環境を考えることの大切さについて学びました。子どもたちは、「人が楽しめるだけでなく、生きものにとっても暮らしやすい環境とはどのようなものか」を考えながら、自分たちにできる活動について話し合いました。

また、昼休みには委員会の子どもたちが自主的にビオトープ周辺の草取りに取り組んでいます。生きものが暮らしやすく、人も気持ちよく利用できる環境を目指し、自分たちで考え、行動する姿が見られます。

低学年では自然と親しみ、中学年では地域の自然の恵みや災害の歴史について学び、高学年ではよりよい環境づくりに主体的に取り組むなど、学びは学年を越えてつながっています。今後も地域の皆様のお力をお借りしながら、ふるさとの自然を大切にし、未来へつないでいく子どもたちを育ててまいります。



今年度も「ポテの会」の皆様による読み聞かせ

今年度も、地域で読み聞かせ活動が続けておられる「ポテの会」の皆様から、子どもたちへ本の読み聞かせをしていただいています。

読み聞かせが始まると、子どもたちは物語の世界に引き込まれ、真剣な表情で耳を傾けています。時には笑顔になったり、登場人物の気持ちに寄り添ったりしながら、本の世界を楽しむ姿が見られます。

本との出会いは、豊かな心や想像力を育む大切な機会です。また、地域の方々との温かな交流は、子どもたちにとって安心感や地域への親しみを深める貴重な時間にもなっています。



超ロング昼休み スライムづくり

今月の超ロング昼休みは、スライムづくりを楽しみました。子どもたちは材料を混ぜながら、感触や色の変化に歓声を上げ、夢中で活動していました。地域の皆様との交流を通して、ものづくりの楽しさを味わう時間となりました。



下記のリンク・またはQRコードからご意見・ご質問をフォームでお聞かせください。お電話等でも随時、お待ちしております。

<https://forms.gle/i8NdZ4DsiAyFqVJj6>

